

2021

9

No.323

「だれもが その人らしく 安心して暮らせる福祉社会の実現」をめざして

いばらきの 社会福祉

Social Welfare of IBARAKI

ふくし“きらり人。”
任命しました！



ふくし“きらり人。” 吉田 昌平 さん

Contents

2 3 特集 オンラインスタジオできました!!

4 5 社会福祉従事者研修案内
福祉の仕事無料で紹介
福祉・介護のお仕事を体験してみよう!!
教育支援資金貸付制度のご案内
茨城県内社協職員新任・初級研修を
開催しました

6 7 地域福祉活動レポート
東海村社会福祉協議会

8 9 ふくし“きらり人。”
特別養護老人ホーム成華園
吉田 昌平 さん

10 楽しいニュースポーツ
・ユニカール
・シャフルボード

11 インフォメーション

12 わかち合おう小さな善意



はんどちゃんの紹介

はんどちゃんは、「福祉コミュニティづくり県民運動」のキャラクターとして茨城県社会福祉協議会、茨城県内の市町村社会福祉協議会を中心に活躍しています。

茨城県社会福祉協議会にオンラインスタジオできました！！

新型コロナウイルスの感染拡大により、従来の集合型研修の開催や会議への参加等が難しくなり、本会が実施を予定する研修や会議を web 配信に切り替えて実施しました。しかしながら、収録を行う場所の確保や、収録に適した環境整備、オンライン研修の配信の仕方など初めてやることで、とまどうことばかりでした。

そのため、本会では県の補助を受けて、これまで執務室として使用していた部屋を改修し、常設のスタジオを設営することができました。

今回は、改修にあたって本会が準備した機材等についてご紹介いたします。

1. 映像関係



モニター

これまでの、プロジェクターからスクリーンへの投影に加えて、モニターに映すことで鮮明な画像を表示することができるようになります。



ビデオカメラ・カメラ

配信する研修映像を収録します。
対談を収録する場合は2台使用します。



スイッチャー

接続された複数のカメラの映像をワンタッチで切替えることができます。



三脚

ビデオカメラやカメラを固定します。

2. 音響関係



ワイヤレスマイク

音声クリアに録音でき、講師の両手がフリーになることで、講義の負担軽減につながります。



ショットガンマイク

収録時にカメラマイクだけでは收音しにくい講師の声を、明確に收音して配信することができます。



防音パネル

収録中の音が外部に漏れないようにスタジオの壁に貼ります。



收音パネル

収録中の余計な雑音を吸収し、音声をよりクリアに収録することができます。

3. 照明関係



ライト

人物等の主要被写体にハイライトを与え、画面の中で周囲から目立たせる役目をします。



防音・遮光カーテン

外からの騒音や光を遮り、部屋の中からの音漏れも防ぎます。



ロールカーテン

外部の光を遮ります。

これらの機材を設置したところ、以下のようにになりました。



Before



After

4. 職場内研修の実施

このたびの、スタジオ整備とともに、本会職員が動画の収録、編集、配信を円滑に行えるよう、株式会社 ADesign「エーデザイン」のビデオクリエイターを講師に迎え、動画撮影の基本（被写体と撮影対象物の位置について、照明について、三脚とビデオカメラ、マイクについて、基本的な撮影の実践）と、動画編集ソフトを使用した動画編集の仕方を学びました。本会では、今回の研修で学んだことを活かして、受講者の皆様のスキルアップにつながる研修の発信を強化していきますので、ご期待ください！！



社会福祉事業従事者研修への参加お待ちしています

社会福祉事業従事者研修に参加すると

- ①研修システムによる職員の受講管理ができます。これまで受講してきた職員の研修受講履歴を見ることができます。
- ②レポート提出者には修了証をダウンロードすることができます。

研修形態は3種類！

- 録画配信研修⇒いつでも何度でも、どこでも学ぶことができます。ため、聞き逃しても再確認できます。
- ライブ配信研修（Zoom オンライン）⇒移動時間の短縮、感染症対策になります。
- 集合研修⇒これまで通り、演習形式による学び、受講者同士のネットワークづくり、直接講師とのやりとりができます。

事業所内でも、職員個人のスマホでも学べる仕組みとなっており、多様な勤務体制にも対応できます。



これから開催案内する研修は

- ファシリテーション研修
- 発達障害研修
- ハラスメント研修 など

研修システムに事業所登録し、メールアドレスを登録していただくと、研修案内が届きます！ぜひ、メールアドレスをご登録ください。

アクセス方法はこちら！

- ①研修システムアドレス
https://www.ibaraki-kenshu.jp/kenshu_user/
- ②茨城県社協 研修 検索 で検索
- ③QRコードはこちら



問 福祉人材・研修部 TEL：029-244-3755

茨城県福祉人材センターでは福祉の仕事を無料で紹介しています

茨城県福祉人材センターでは、「福祉のお仕事をしたい」「福祉の仕事に興味がある」という方と「一緒に仕事をする仲間を募集したい」という事業所をつなぐお手伝いをしています。



福祉人材センターの求職登録については、窓口のほか「福祉のお仕事」ホームページからの求職登録も受け付けています。→



QRコードはこちら

問 茨城県福祉人材センター
TEL：029-244-4544



福祉・介護のお仕事を体験してみよう！

福祉・介護の仕事に関心がある方を対象に、実際の福祉・介護の現場を体験し、魅力を感じていただくことを目的に、職場体験の申し込みを受け付けています。資格や経験は不要なので、この機会に福祉のお仕事に触れてみてはいかがでしょうか。興味のある方は、以下にお問い合わせください。

参加対象	◇福祉・介護の仕事に興味・関心を持っている方
	◇茨城県内の福祉施設・事業所に就職を希望している方
参加条件	◇中学生以上ならどなたでも参加できます。
	◇資格・経験等不問です。
	◇参加費は無料です。
	◇終了後、修了報告書兼アンケートを提出いただいた方には、体験1日あたり500円相当のクオカードを差し上げます。
体験期間	◇1日～10日以内

問 茨城県福祉人材センター
TEL：029-244-4544

将来の夢に向かって進学される方を応援しています～教育支援資金貸付制度のご案内～

本会では、低所得世帯を対象に、高校、専門学校、短大、大学等に進学される際の費用を、無利子でお貸付する制度を実施しています。

「将来の夢があり進学したい（させたい）、けれど学費を支払うことが難しい…」と進学を断念される前に、お住まいの市町村の社会福祉協議会へ教育支援資金貸付制度についてご相談ください。

《教育支援資金貸付制度の内容》

資金種類	対象世帯	貸付限度額	据置期間	償還期間	貸付利子
教育支援費	低所得世帯※ ¹	高校 月額 35,000 円※ ²	学校卒業後 6 月	20 年	無利子
		高専 月額 60,000 円※ ²			
		短大 月額 60,000 円※ ²			
		大学 月額 65,000 円※ ²			
就学支度費		500,000 円			

※1…独立自活に必要な資金の融通を他から受けることが困難であり、所得基準が生活保護法にいう生活扶助基準の概ね 1.7 倍以内の世帯

※2…教育支援費については、特に必要と認める場合、上記貸付限度額の 1.5 倍までを上限とすることが可能です。



教育支援資金以外にも、他機関が実施している各種奨学金があります。

教育支援資金貸付制度を利用する前にほかの制度をご検討ください。

【例】日本学生支援機構 ①給付奨学金制度 ②第一種（無利息）・第二種（利息有）奨学金制度
茨城県 ①茨城県奨学資金 ②母子父子寡婦福祉資金（修学資金）等

令和3年度茨城県内社会福祉協議会職員新任・初級研修（ステップ1）を開催しました

令和3年度茨城県内社会福祉協議会職員新任・初級研修（ステップ1）を、7月1日（木）にアダストリアみとにて、本会、茨城県市町村社会福祉協議会事務局長会、茨城社会福祉協議会職員連絡協議会の3者共催で実施しました。

石岡市社会福祉協議会主任の関町美紀子氏のアイスブレイキングにより始まったことで、参加者の緊張がほぐれ、コミュニケーションのとりやすい雰囲気が生まれました。

講義Ⅰは、「社協の基本理解」と題し、社協のこれまでの歩み・機能・理念等、社協の基礎について本会職員から説明しました。

講義Ⅱは、「社協新任職員への期待」と題し、神栖市社会福祉協議会事務局長の橘田勝氏から御自身の経験に基づく社会福祉協議会の存在意義についてお話をいただきました。

講義Ⅲは、本会地域福祉活動アドバイザーである、茨城県生涯学習・社会教育研究会会長の長谷川幸介氏から「新しい時代の社協職員像」～パラダイムシフトとライフシフト～と題した講義が行われました。「幸せになるためには何が必要か」という問いから、「新しい時代の社協職員像」へと展開された講義に、参加者たちは引き込まれていました。

参加者の皆さんにとって社協職員としての心構えを確認する機会となり、今後の業務にあたるうえでの指針になったのではないのでしょうか。

今後、ステップ1のフォローアップとして、ステップ2となる研修を11月に開催予定です。



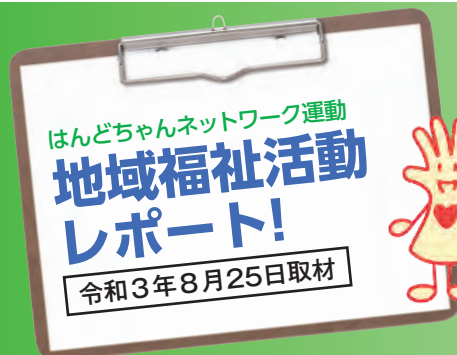
アイスブレイキングで行ったグループワークでは、笑顔もみられました。



先輩社協職員の講義を真剣に受ける姿がみられました。



「新しい時代の社協職員像」について、参加者は今後の指針を得られたようです。



社会福祉法人 東海村社会福祉協議会

「かけがえのない一人ひとりを 想うまちづくり」

コロナ禍で必要とされる新事業を展開

東海村社会福祉協議会（以下、東海村社協）では、第4次東海村地域福祉活動計画のもと、住民同士が「つながる」「支え合う」「助け合う」地域づくりの推進を基本目標に、地域団体や関係機関などと連携しながら住民主体の福祉活動を推進しています。コロナ禍により集合型での事業展開が困難になっていますが、今必要とされる住民のニーズをキャッチし、数々の新たな事業を立ち上げ、取り組んでいます。その活動について事務局長の相巢博之さん、生活支援課地域福祉推進係長の大内智弘さん、生活支援課生活支援ネットワーク係長の市毛幸子さんにお話をうかがいました。

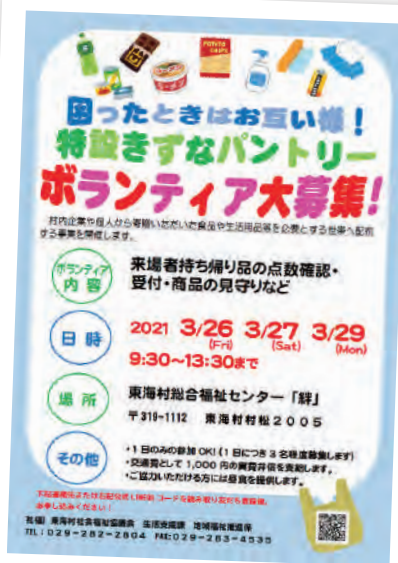
「新型コロナウイルス緊急応援事業」を展開

新型コロナウイルスの感染拡大が始まった昨年度から展開しているのが、「新型コロナウイルス緊急応援事業」です。これは定型の事業ではなく、事業の枠にとらわれずに立案された複数の事業をまとめた呼び方で、現在では12事業に至っています。最初に実施したのは「お店と家庭の応援プロジェクト」で、高校3年生までの子どもがいるひとり親世帯や生活困窮世帯を対象としており、そのうちの希望者に村内の飲食店で利用できる「テイクアウトデリバリー助成券」を配布するものです。次に、マスク不足の期間に未使用のマスクを募集し、福祉施設や住民に配布する「東海村マスク for you! プロジェクト」。さらに、高齢者など初

心者を対象とした「LINE はじめて講座」や宅食を行う「もぐもぐお届け便」など次々と事業を展開。大内係長は、「徐々に利用者が増え、昨年スタートした事業はスムーズに運営しています。利用者が多いのは、『お店と家庭の応援プロジェクト』で、今年の8月20日に2度目の緊急事態宣言が出たことから、第2弾がスタートしました。新型コロナウイルス感染症の動向は読めませんが、その時々状況によりニーズが増える事業があります。」と話していました。

「フードロスマッチング事業」がスタート

今年度から新しく始めたのが、「フードロスマッチング事業」です。お店のフードロスの削減とひとり親世帯の食費削減をマッチングさせる取り組みで、フードロス商品が出た場合に各店のSNS等で情報を発信し、登録した利用者が「どうぞパスポート（10枚綴チケット）」と食品を交換します。スタートして間もない事業ですが、令和3年8月25日現在でパン屋やケーキ店など11店舗



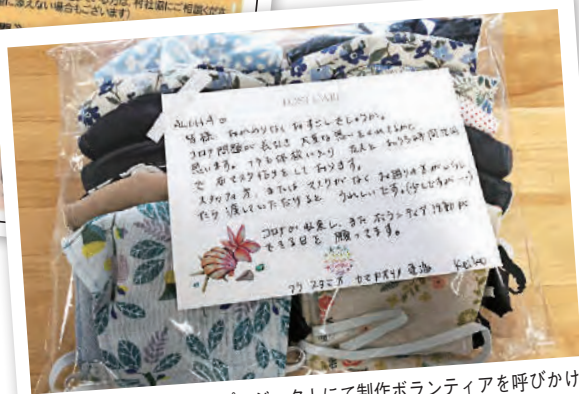
特設きずなパントリー事業実施時に
これまでの利用者に協力を呼びかけ



地域住民からいただいた食品で構成された「もぐもぐお届け便」

からの協力があり、利用者の皆さんから好評です。この事業はSDGs17の目標の中の「1. 貧困をなくそう」「2. 飢餓をゼロに」「12. つくる責任つかう責任」に該当しており、東海村社協では従前からSDGsを意識して日頃から事業に取り組んでいます。

情報発信ツールとしては、それまで活用していたホームページ・フェイスブックに加えてツイッター・インスタグラム・LINEを展開。「SNSの活用は若い世代の職員からの提案で始めたのですが、



東海村マスク for you! プロジェクトにて制作ボランティアを呼びかけ



「LINE はじめて講座」では若者のボランティアが活躍

情報を発信すると若い人たちの反応が早いです。SNSを取り入れたのは他の市町村社協と比較すると早い方で、問い合わせも多くあります。対象に合わせて、紙媒体とSNSの両方を活用し効果的に情報を発信したいと考えています。」と相巢局長。

若い世代が活躍しやすい組織づくり

新事業は、展開方法にも特色があります。「一つの係だけで担当しているのではなく、生活支援課の地域福祉推進係と生活支援ネットワーク係、管理運営課の企画総務係が協働して行っている事業です。今までは一つの係だけで取り組んでいましたが、立案の段階から係同士で協力し合いました。」と市毛係長。生活支援ネットワーク係は生活福祉資金の貸付業務を担当する部署で、困窮している現状から必要とされる支援が見えるため、そこからいくつもの新事業が立案されました。トップダウンという事業はほとんどなく、現場を持つそれ

ぞれの係で、地域で困っている人に何ができるかを話し合っ進めています。「若い世代の発想と動いていく力が素晴らしく、我々はそれを支えていきました。限られた財源でも実施できるよう、20代、30代の職員が色々なアイデアを出してくれるので頼もしかったです。」と相巢局長は振り返ります。

何気ない助け合いが当たり前ができる社会に

今後の取り組みとして、「住民や職員、みんなから上がってきた声に応えていきたい。」と市毛係長。大内係長は「あと数年はコロナを考えながらの事業推進となるので、SNSのツールを活用し地域の細かい単位で活動ができる仕組みづくりを考えていきたい。」と言葉にしています。相巢局長は、「地域のつながりが希薄になってきていることから、今後は個別支援のボランティアが増えてくると思います。地域の人たちに、地域づくりや地域の助け合いが必要だということを、我々社協や行政が伝え、何気ない助け合いが当たり前ができる社会をつくっていかないといけない。」と今後の展開を話していました。東海村社協が目指しているのは、普段の生活で隣の人が困っていたら手を貸してあげる、そういうことが当たり前のようにできる地域づくりです。



SNSでの情報発信を強化



東海村社協の市毛さん、相巢さん、大内さん（左から）